





母
穴
逆
乳

14

成人向
R-18
For Adult only

夜が更け
日付が変わる頃

か：母さん
開けるよ

俺は母の
部屋を訪れる

……うん
いいよ……

恒平
もう宿題は
終わったの？

うん……

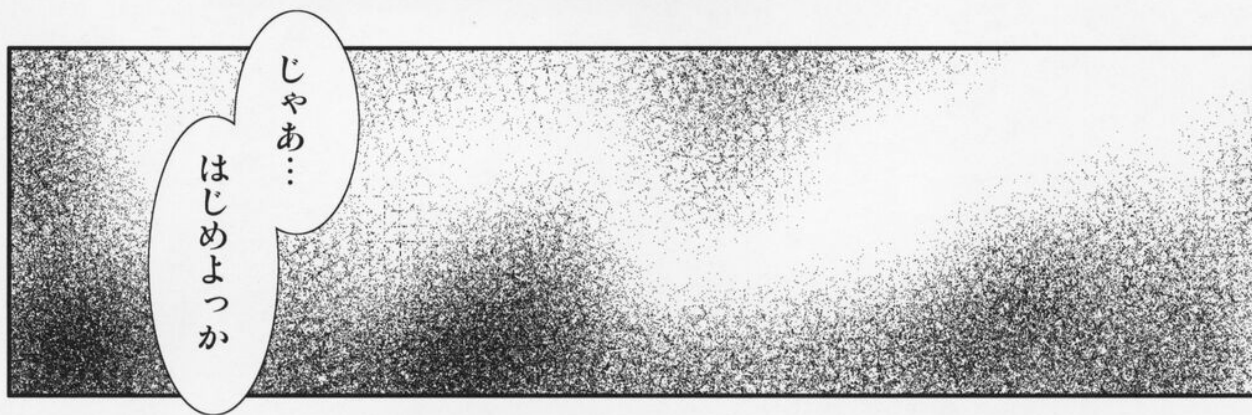
そう……
じゃあこっちへ
いらっしやい

心臓が
割れてしま
うくらい高
鳴っている
のが分かる



これから
母さんが

オナニーを
手伝ってくれるから



じゃあ...

はじめよっか



コクン

うん…

いつもの
元気な
母の声とは違う
上ずった声



母さん…
口開けて

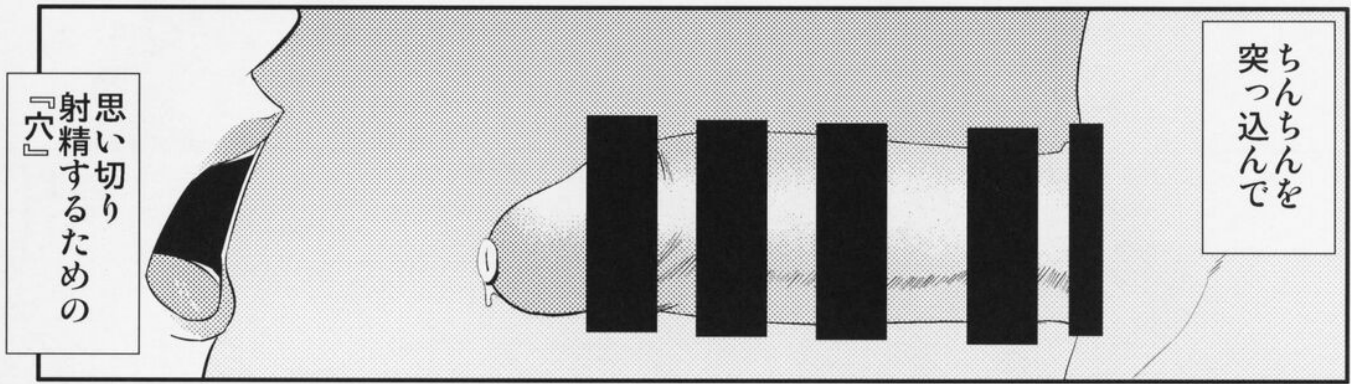


くぼあ

気持ちのいい
「穴」だ



ああ…何も
考えられなくなる



思い切り
射精するための
「穴」

ちんちんを
突っ込んで

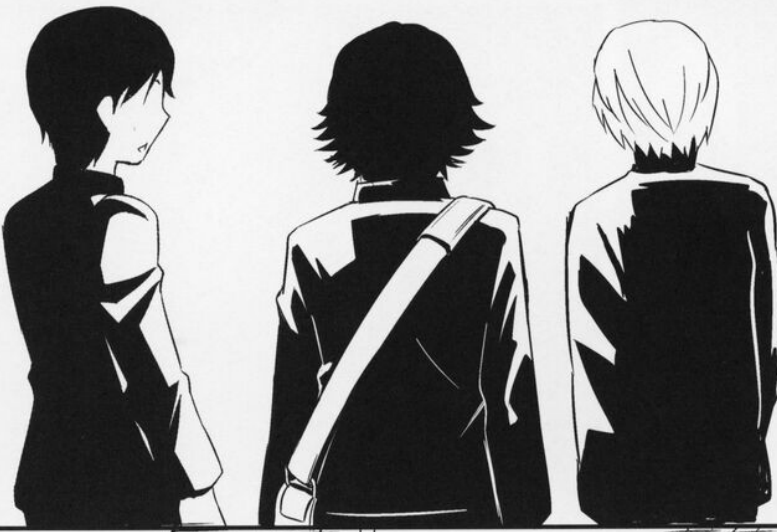
そんなこと…
互いに
分かっている
はずなのに

母親に
させる
行為じゃない

翌朝

毎晩
あんなことを
してるから

最近はおはようも
言わずに
家をでることにしてる



ちよつと
待ちなさい

忘れ物よ

あの声
お前ん家の
おばさんじゃね？

？
なんで
母さんが…

今頃仕事
行ってるよ

!?

はい
追いついた！

ギィ

やっぱり
お前の
おばさんじゃん

ほら
忘れ物

友

はい
おはよう
元気が
いいわね

おばさん
おはよー

ほら
あんたも
さつさと
立つ

スッ

ニム

はあ
はあ

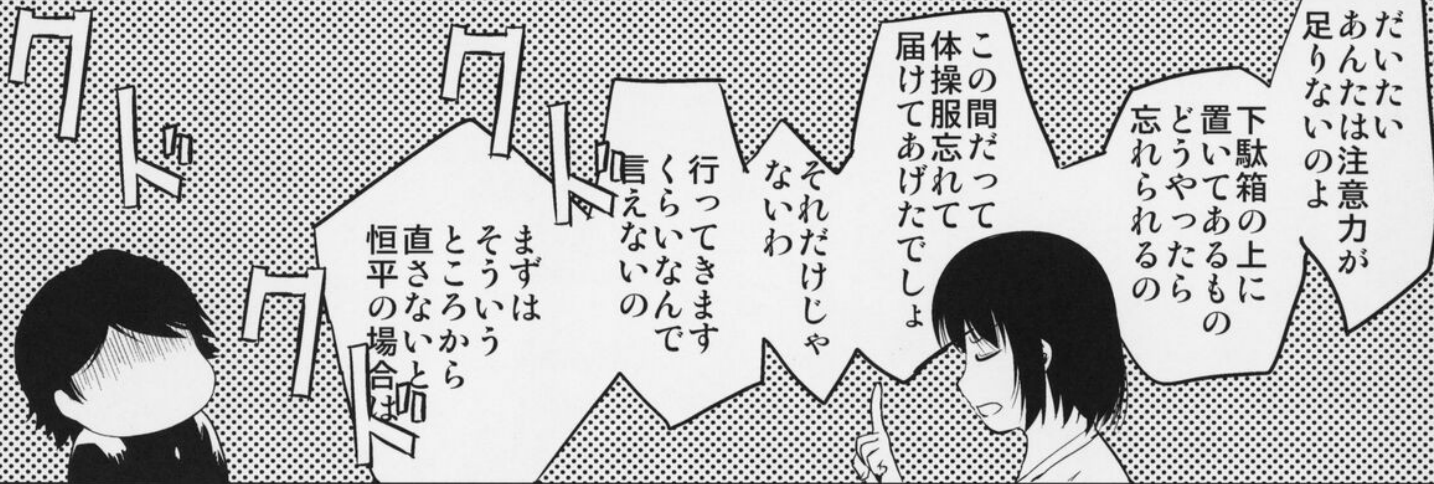
お弁当
忘れて
どうすんのよ

あ：
危ないだろ
腰抜けたわ

必死に追いかけて
きたのに
その言い草はなによ
だいたい
寝坊することから
朝慌てること
なるんでしょ

がー

がー



だいたいあんたは注意力が足りないのよ

下駄箱の上に置いてあるものどうやったら忘れられるの

この間だって体操服忘れて届けてあげたでしょ

それだけじゃないわ

行ってきますくらないなんて言えないの

まずはそういうところから直さないとな恒平の場合



寄り道しなさいね帰ってきなさいね



急いでるはずなのに何度も振り返って…



居眠りしちゃうだめよー



ま、いいわ母さん仕事行ってくるから

あんたはしっかり勉強してきなさい



相変わらずだなお前ん家のお婆さん

あんなことさせたのに…

いつも通り接してくれる…

いつも笑ってるか怒ってるかだよな

母さんの優しさは俺だけが分かる

俺には父がいな

俺が物心つく前に亡くなつたからだ

小学校に
あがる前から
このアパートに
母と二人で
住んでいた

ただいま

だから…
俺にとつての
家族は
母さん一人

おかえりー
お風呂
沸いてるわよ

もうすぐ
ご飯もできるから



ふふ…
お礼なんて
珍しいじゃない



次から
気をつけるから

…



あのさ…

お弁当…
ありがとうね

物心ついた頃から
そんな
母さんのことが
大好きだった

父親がいない
俺のことを
気遣って
いつも
俺の傍に
いてくれた母

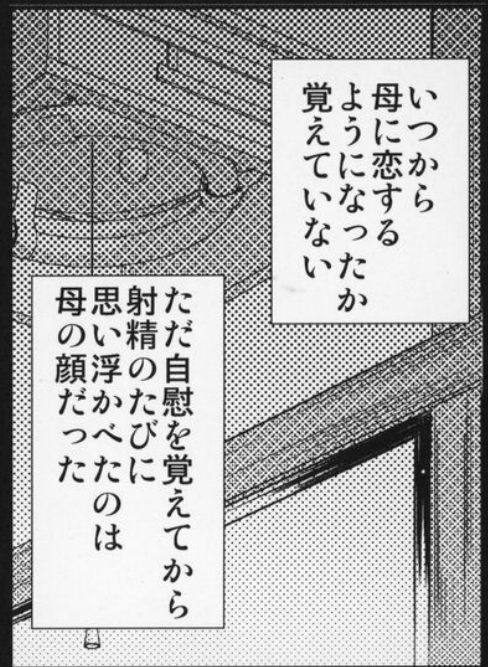


たかだか
ふすま一枚で
隔てられた
空間

母…さん

母さん…っ

母に見られながら
射精する
ような錯覚に
たまらない興奮を
覚えていた



いつから
母に恋する
ようになったか
覚えていない

ただ自慰を覚えてから
射精のたびに
思い浮かべたのは
母の顔だったのは



どうしたの
夜中…

…に…

興奮しすぎて
自分でも
声を抑えられなく
なっていたんだと
思う



呼んだ？



丸出しの性器を
晒しながら
何を言いか
覚えたのかは
覚えていない





……

手伝って
あげよつか？

だ：
大丈夫よ

じわ…

ただ：
俺を慰めた
母の言葉を
俺は多分一生
忘れないと思う
みんな：
その：やつてる
ことだから

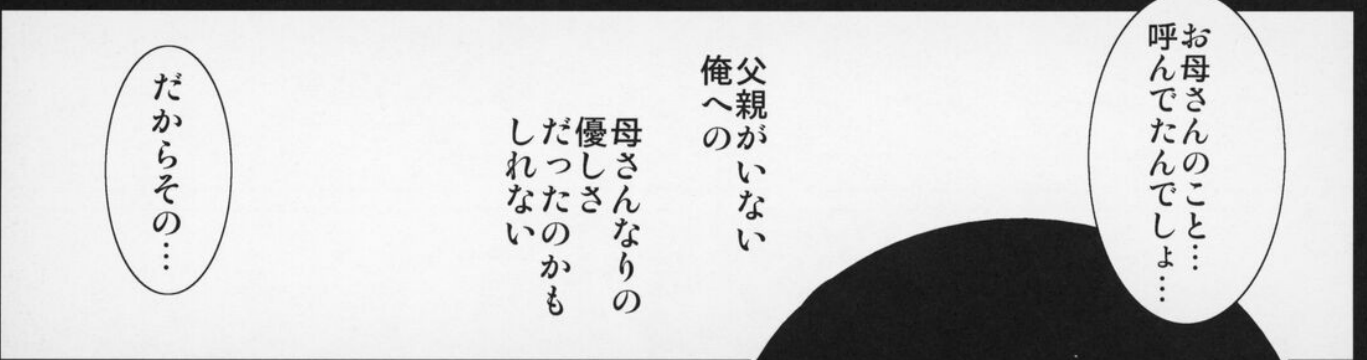


え…と
あの…

ご：
ごめんね

その：
「お母さん」って
聞こえたから

あのその…



お母さんのこと…
呼んでたんでしょ…

父親がいない
俺への

母さんなりの
優しさ
だったのかも
しれない

だからその…



お母さんに
できることが
あれば…

その：
手伝って
あげよつかなあ…

なんて…

俺はその晩
母の手の中で
射精した

あれから
二ヶ月

俺は毎晩のように
母の部屋へ
通った

今日は
宿題あるの？

うん：
英語の予習と
数学のプリント

ふーん…

性行為については
授業や
友達の持つてる本で
ある程度は
知っていた

だから
母さんとしてる
行為が
『あつてはいけない』
ということも
なんとなく
わかっていた

でも…
夜が近づくと
どうしても
我慢できなくなる

頭では
分かっているのに
気づくと
母の部屋の前に
立っている

母さん…
起きてる？

こっち
いらっしやい

ズボン
脱がして
あげる

ひ、一人で
脱げるよ

いーの
お母さんに
やらせなさい

もう…
今日も
おつきく
して来て…

ごめん…
でも俺
母さんのこと
考えると…

母さんは
自分に興奮している
というのを
頑なに認めなかった

嘘ばっかり…

どうせまた
エッチな本でも
読んできたんでしょ

じゃあ…
いつもので
してあげるね

一度深く
啜え込ん
でから

口の中に
唾液を
ためていく

唾液を
肉厚の唇で
塗りこんで
いくように

唇を締め付けながら
ゆっくり引き抜く

母さんが
俺のために
考えてくれた
優しいフェラチオ

ああ：
母さんの口の中
凄くあつたかい！

味わうように
ゆっくりと
時間をかけて勃起を
嘗め尽くしていく

最初は
あんなに
抵抗してたのに



さきつぼ
だけよ

ほんのちよつと
舐めるだけ
だからね



で…できるわけ
ないでしょ
むー

お：おちんちん
舐めるなんて
変態のすること
じゃない



…うん
じっと
してなさい…



今ではこんな…
むしやぶり
つくみたいに…

か…
母さん
俺もう…
限界かも…

きゅん

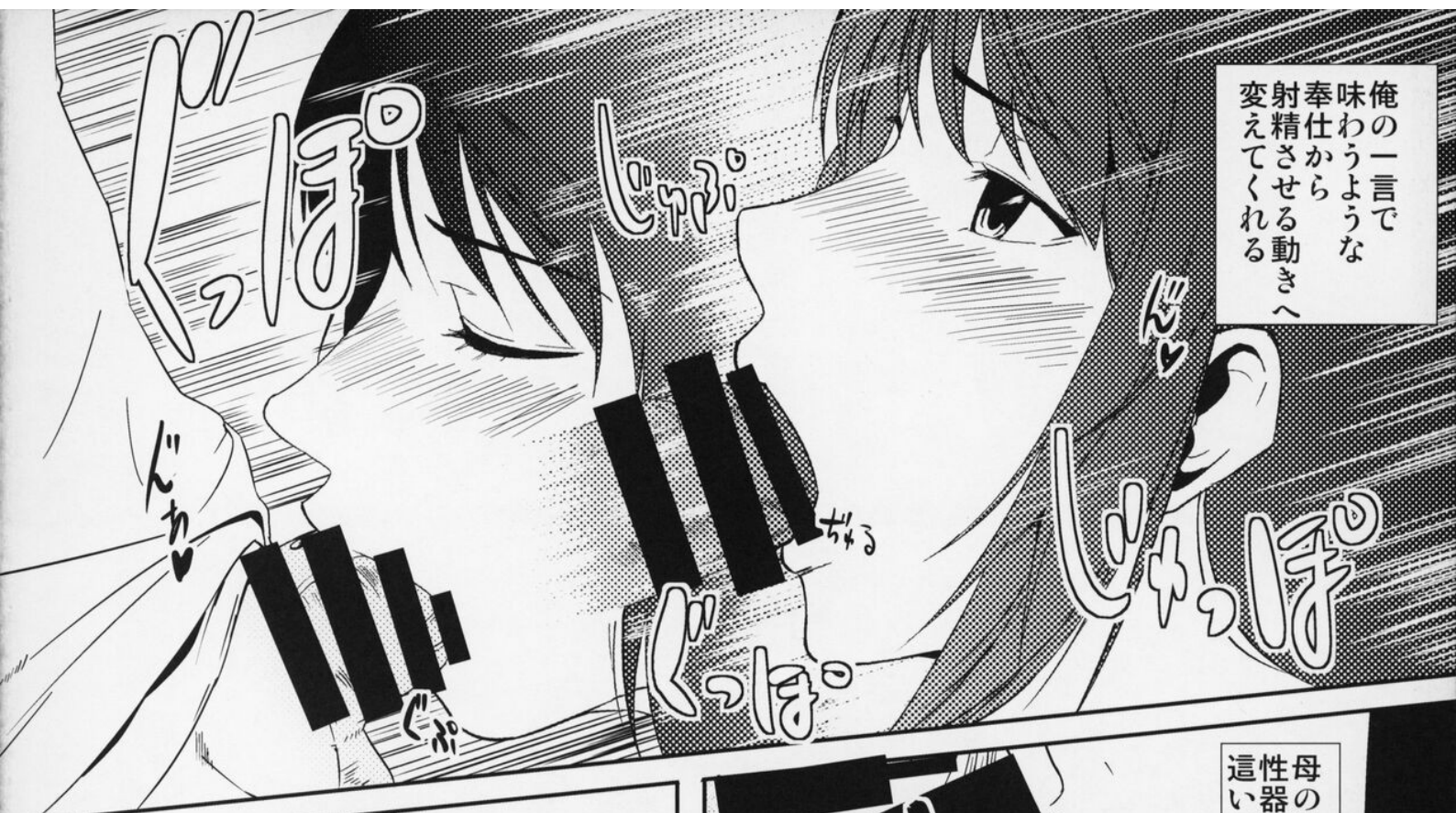
きゅん

ドキ

ドキ

んふ
んふ
んふ

俺の一言で
味わうような
奉仕から
射精させる動きへ
変えてくれる



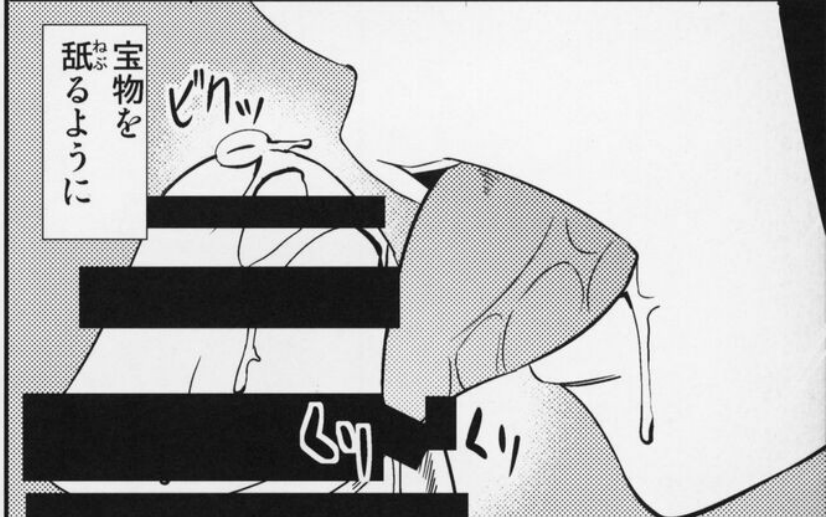
母の温かい舌が
性器の隅々まで
這い回る



俺のため
に覚
えて
てく
れた



宝物を
舐めるように



俺が喜ぶ
ところ
に舌を
運ぶ





ほら泣かないの男の子でしょ

お母さんが撫でてあげるから



お母さんそういうだらしのないの許しませんからね

俺のために...

ここまでしてくれる



すごい満点じゃないいっばい勉強したもんね

今日はご馳走にちなきや

母さんー♡

か...さん俺もう...っ

う...ああ...



俺の精子
全部飲んでっ

飲んで...っ
母さんっ

♡飲んで♡♡♡

ああ...俺
母親の
口の中に
射精してる♡



全部
飲んだよ……♡





それより
恒平は
気持ちよかった？

え…
あ…うん

こんな…
道具みたい
に扱いた
いわけじ
ゃないの

ご、ごめん
母さん
興奮しすぎ
ちやつて…



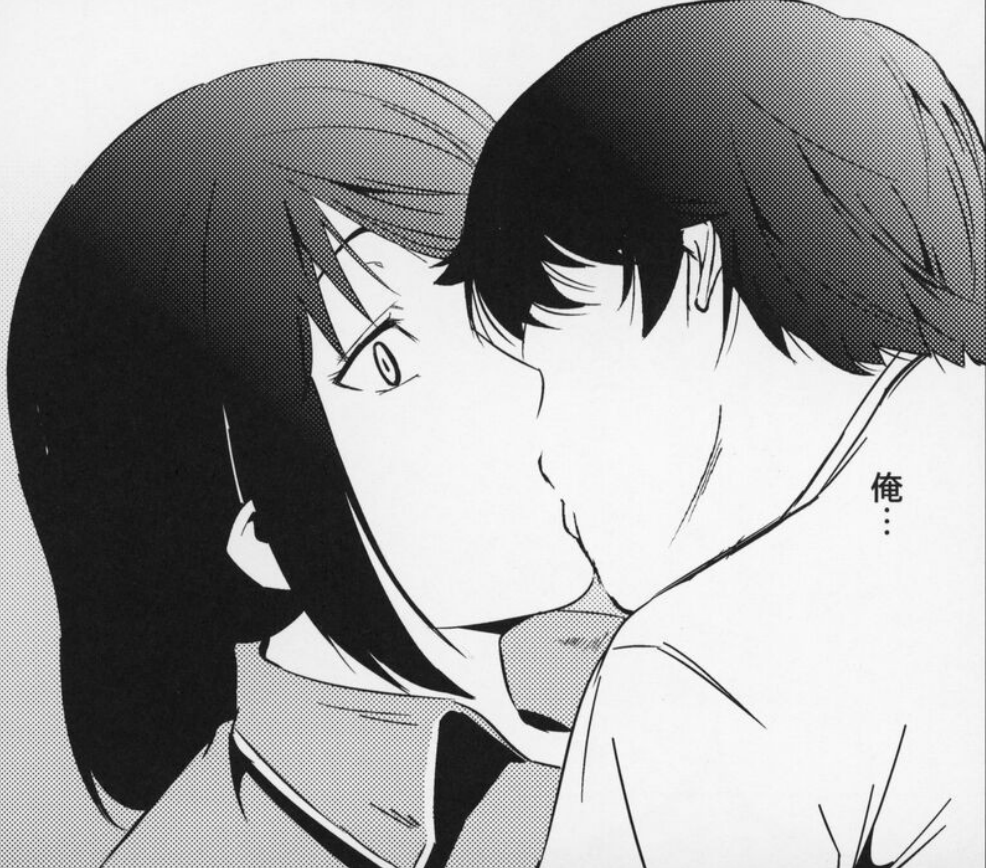
ううん
大丈夫

むせたけど

恒平が
気持ちよく
なってくれたなら
それで十分だよ

ダメだよ
母さん…

よかった
お母さん
こういうの
よく
わからないから…

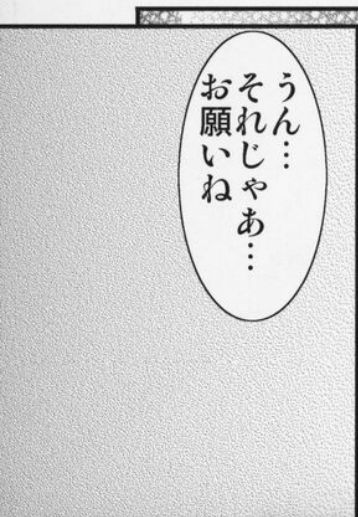


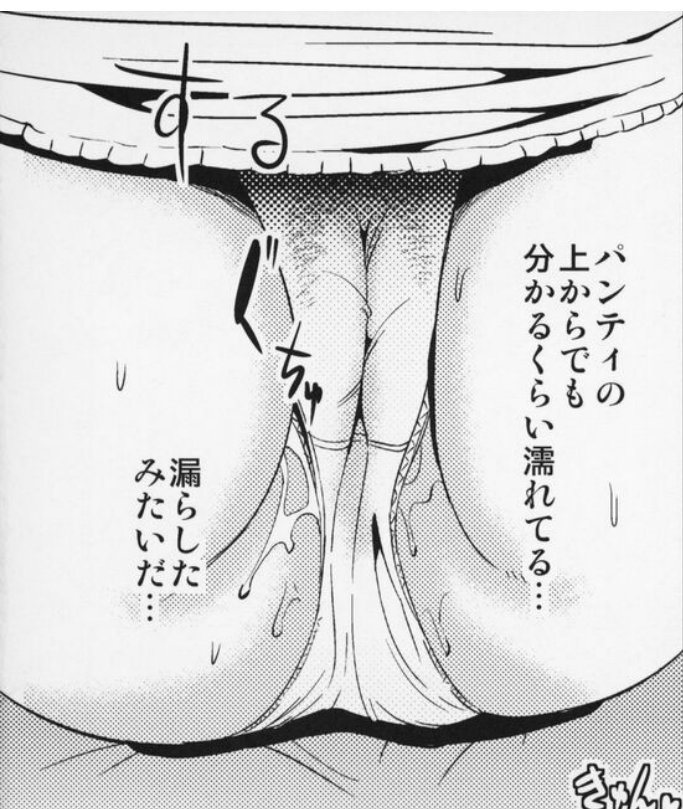
俺…



母さんに
そんなこと
言われたら…

?





漏らした
みたいだ…

パンティの上からでも
分かるくらい濡れてる…

そんなに
見ないでね…

お母さん
あ…あんまり
処理してないから



か…母さん
濡れてるよ…

し…
知らないっ

触るよ…

うん…





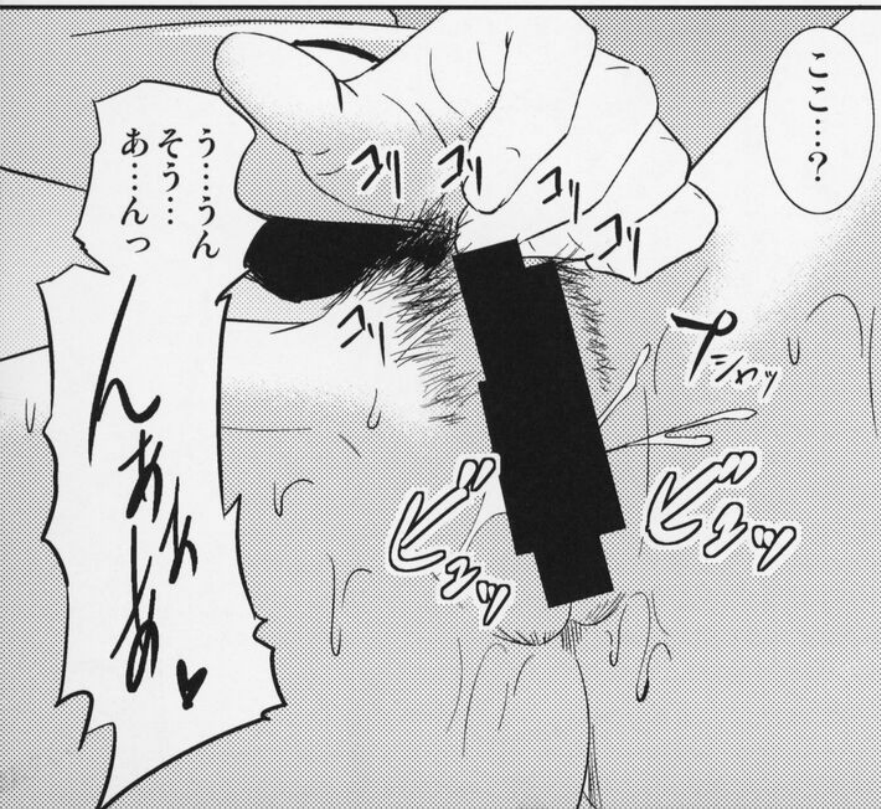
これって女の人
が気持ちいい
ときの…

大丈夫…

え…
あ…
ごめん



人に…
触ってもらうの
久しぶりだから



ここ…?

う…うん
そう…
あ…んっ



も…少し
上…のほう

触ればほど…
奥から
溢れてくる







気持ち悪いわけ
ないでしょ

恒平のおちんちんに
触れるだけで…
凄く興奮
してたんだよ

でもお母さんは
だからって…

恒平の気持ち
考えないで…

お母さんも
同じ…ずっと
恒平とする
こと考えてた

しゅ♡



自分の気持ち
ちゃんと
伝える

お母さん
もう我慢しない

大好きだよ♡

これからいっぱい
お母さんと
セックスしようね♡



んあっ

母さんっ

母さんも
俺のことー

んあっ

んんっ

んっ



あぁ…
乳首こりこりで
美味しい

ちゅぱ♡ちゅぱ♡

ちゅぱ

甘くて
しゃぶつてると
凄い落ち着く

あんっ
乳首…
いい♡
もっと
しゃぶつて



もう…
バカ♡

はぁ
はぁ
はぁ

その頃から
母さんのこと
大好きだった
んだよ

おっぱい…
美味しい？
恒平なかなか
乳離れ
できなかった
もんね

ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ

もにゅ♡



お母さんは
恒平が
おなかに
居るときから
好きだった♡

すっ♡
すっ♡
すっ♡

セックス
しながらの
小さい頃の
話を
するの♡



俺ももう……っ

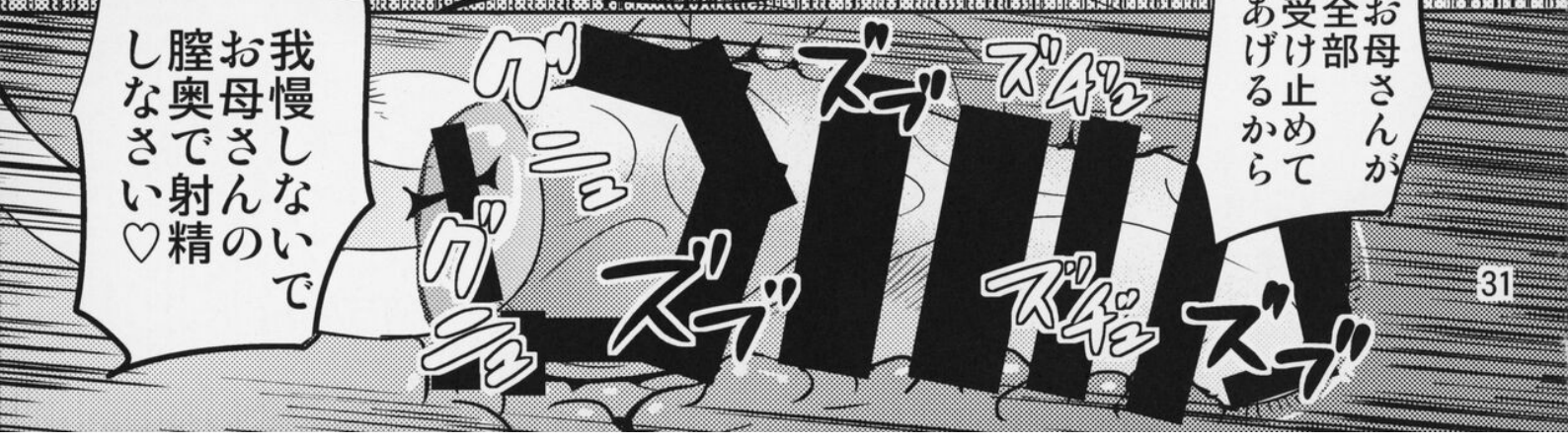
母さんっ



そのまま
腔^なに出して♡

ごっごっ

キョ



我慢しないで
お母さんの
腔奥で射精
しなさい♡

お母さんが
全部
受け止めて
あげるから

ああ…
凄い…♡



恒平見て
ごらん

恒平が
お母さんに
くれた愛の証

そういつて
母は
昼間のように
無邪気に笑った

もうすぐ
夜が明ける

誰に理解して
もらえなくてもいい

僕は母と
もう一つ
家族を作る
覚悟を決めた

あとがき

お久しぶりです
ナリヲです

今回は息子から襲う的な話にしようと思っていたのですが
どうにも和姦方向に話が行ってしまい…

息子視点での母子相姦をもっと勉強したいと思います
(母親視点が好きなのでどうしても母親に肩入れしてしまいます)

あと導入…こればかりはもう練習あるのみです
もっと自然に入れるよう精進していきます
今回はモノログも長く…もっとまとめないとだめですね

あとがきが毎回駆け足ですいません

それでは、またどこかでお会いしましょう

ナリヲでした

奥付

誌名:母穴を掘る14

発行元:天愚連

発行人:ナリヲ

初版 :2014年12月30日

印刷:ねこのしっぽ様 本当にすいませんでしたorz

連絡先:<http://curtana.blog75.fc2.com/>



An illustration of a woman's torso, showing her chest and midsection. She is wearing a light purple, possibly wet, garment that is partially open, revealing her breasts. The skin is glistening with droplets of liquid. The text '天愚連' is written in a stylized, black, calligraphic font across the center of her chest, underlined.

天愚連